

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学実習Ⅱ(診断治療実習)	2	前期	2	実習 90時間
担当教員	岡本明美、千葉恵子			
授業概要	関心領域のがん患者のフィジカルアセスメントに基づく診断・治療に関して、医師の診察・治療場面に同席し、患者に必要な医療を判断し提供する能力を養う。また、終末期にあるがん患者の在宅診療に医師と同行し、診療内容と臨床判断プロセスを修得する。さらに変化する保健医療制度の中で、より質の高いケアを提供するために、多職種と協働する能力を養う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心領域のがん診療の場で医師と共にごん患者の診察を行い、診断・治療方針の決定に至る思考プロセスを説明できる。</li> <li>2. 様々な診療技術やがんの病態生理学的知識及び臨床薬理学的知識を活用して、がん患者の徴候や症候をアセスメントできる。</li> <li>3. 医学アセスメントをもとに、がんやがん治療ががん患者の生活に及ぼす影響を看護の立場からアセスメントし、多職種と協働しながら問題解決への方略を検討できる。</li> <li>4. 在宅療養をしているがん患者の状態を臨床的に判断し、身体管理方針について述べるができる。</li> <li>5. がん患者の診断・治療に必要な実践・連携等を通して、がん看護専門看護師として活躍する上での自己の課題を明確にできる。</li> </ol>			
履修条件	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱを修得していること。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習内容 関心領域のがん患者の診療場面に同席し、病態把握のためのフィジカルアセスメントの実施と評価、それらに基づく検査・医療処置、処方に関して学ぶ。 関心領域のがん患者の診断・治療に必要な実践・連携を通して、がん看護専門看護師として活躍する上での自己の課題を探究する。 また、終末期にあるがん患者の在宅診療に医師と同行し、診療内容と臨床判断プロセスについて学ぶ。</li> <li>2 実習方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習指導者の指導を受けながら実習計画を立案する。</li> <li>・関心領域のがん患者に対して行われる診断・治療場面に同席し、フィジカルアセスメント、診断・治療過程の見学と講義を受ける。</li> <li>・関心領域のがん患者に行われるフィジカルアセスメント、それらに基づく検査・医療処置、処方に関して指導医の指導を受けながら事例検討を行う。</li> <li>・指導医の指導の下、関心領域のがん患者に行われるフィジカルアセスメント、それらに基づく検査・医療処置、処方の実践と、その過程における多職種連携を学ぶ。</li> <li>・在宅診療を受ける終末期がん患者を1名担当し、在宅医の指導の下にフィジカルアセスメント、医療処置、処方の実践と、その過程における多職種連携を学ぶ。</li> <li>・がん看護専門看護師として活躍する上での臨床判断および、薬物、検査、処置の選択や管理の実施および診断・治療に必要な多職種連携について考察し、レポートを作成する。</li> <li>・中間カンファレンスと終了カンファレンスを計画し実施する。</li> </ul> </li> <li>3 実習施設 亀田総合病院</li> <li>4 実習時期と期間 2年次前期 2週間</li> </ol>			
教科書	なし			
参考書	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱで使用した文献 その他、適宜紹介する。			
評価方法・基準	実習でスーパービジョンを受けたがん看護専門看護師による評価(10%)、カンファレンス内容(20%)、最終レポート(70%)を総合して評価する			
事前・事後学習	事前学習：実習計画書を作成する。今までの学修内容を確認し、実習における課題を明確にする。 事後学習：実習記録およびレポートを作成する。			
備考	特になし			